

## 三和小学校 研究概要

### 研究主題

# すすんで探究し、互いを高め合える三和っ子

## －ＩＣＴを活用した学習の効率化と個別最適化－

各教科の学習における「効率化」と算数科の「個別最適化」の方法により、すすんで探究し、互いを高め合える子をめざす。また、日常の学校生活の中にも「ＩＣＴの活用」を取り入れることで、学習活動をいっそう充実させ、仲間とともに高め合っていける子どもを育てていく。

### 研究方法（てだて）

#### 1 各教科の学習で効率化を図る

意見交流の場面で、ＩＣＴ機器を活用し、授業の効率化を図る。

自分の考えをもち、タブレット上に出し合う。これを一斉に確認することで、友達の意見を知り自分の意見と比べる時間を効率的に行う。その後、全体での話し合いの時間を十分にとることで、話し合いがより深まり、互いを高め合える子をめざす。

また、振り返りや導入場面でＩＣＴを活用することにより、自他の今までの学びを引き出して深めたり、次への学びの意欲へつなげたりする。

#### 2 算数科の授業で学習の個別最適化を図る

例題を全員で一斉学習した後、次の問題以降をみんなで進めるコースと自分で進めるコースに分かれて取り組む。学習方法を選択できるようにすることによって、学びを楽しみすすんで探究する子をめざす。

##### ＜みんなで みっくんコース＞

一斉授業形式で、友達と解き方のポイントを確かめ合いながらじっくり理解し、意欲的に学ぶ子をめざす。理解できたと判断したら、コース変更して自分で取り組んでみることができる。

##### ＜わくわく わっくんコース＞

ドリルソフトなどを活用して試行錯誤を繰り返しながら、自分のペースで問題を進める。学びを深める（楽しく、工夫して、理解を深めて解く）問題作りをすることで、互いに解き合い意見交流することや先の単元の問題に取り組むこともできる。

#### 3 特別支援学級で個に寄り添った有効活用

一人一人に合わせた教材の配付により、すすんで学習に取り組む子をめざす。また、交流学級の友達の意見を見て、学習を深めることもねらう。

令和7年10月30日(木)

西尾市立三和小学校

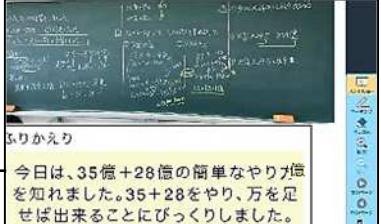
## 研究の実践

### (1) 授業で学習の効率化を図る

#### 【「意見交流場面の効率化」を取り入れた学習の流れ】(例)

| 本時の目標 | 学習活動   | 黄色の部分 ICT 活用  | ・てだて ●ICT  |
|-------|--|---|--|
| つかむ   | <p>1 本時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真やデータ、アンケート結果、前時の内容などから、本時のめあてへつなぐ。</li> </ul> <p>2 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">めあて</div>  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●本時の見通しをもつために、写真やデータ、アンケート結果、振り返り、前時までの板書などから本時につながるものを選んで提示する。</li> </ul>  |
| 深める   | <p>3 「めあて」について、考えるために必要な資料紹介や音読、用語の確認などをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習に応じて「各自の調べた内容」や「考えとその根拠」などをもとに考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">中心発問 (提示場面は授業によって異なる)</div> <p>4 「中心発問」について、個々に考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配付されたシートに自分の考えを入力する。</li> <li>・提出箱へ提出する。</li> <li>・友達の考えと比べて考える。</li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてに迫るために、資料提示や見方考え方の確認をする。</li> </ul>   |
|       | <p><b>5「中心発問」について話し合う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問や同じ考え、考えたわけなどの意見を伝え合う。</li> </ul> <p>※<b>ライブ提出箱</b>…「学習者同士で提出物を閲覧できる」で使用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気づきメモに自分の考えを短い言葉で入力する。</li> </ul> <p>※<b>グループメモ</b>…グループ番号は学校で統一するとスムーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の考えも参考にして自分の考えをまとめる。</li> <li>・集約された意見について、理由や説明を伝え合う。</li> </ul>              |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●友達の考えを分類して閲覧できるように、友達の考えと比較できるシートを配付する。</li> <li>●焦点化した話し合いにするために、閲覧機能で友達の考えを見て自分の考えと比べる場を設ける。</li> <li>・「めあて」に迫るために、補助発問を用意する。</li> <li>●深い考えにつながるよう、気づきメモの言葉をもとに指名する。</li> </ul> |
| 振り返る  | <p>6 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りの視点を意識して、学んだことを配付されたシートに入力。</li> <li>・提出箱へ提出。</li> </ul> <p>※<b>資料箱</b>…共通で使う絵図や文を用意<br/>児童や低学年には、必要な単語を用意</p>  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標に迫ることができるように、具体的な視点を提示する。</li> <li>●学習の足跡が分かるよう、板書や関係資料などを付けたシートを配付する。</li> </ul>   |

(2) 授業で学習の個別最適化を図る

| 【算数科「個別最適化コース別」を取り入れた学習の流れ】(例) |  |  |   |
|--------------------------------|--|--|---|
| 本時の目標                          | 学習活動   | 黄色の部分: ICT 活用  | ・てだて ●ICT   |
| つかむ                            | <p>1 本時の見通しをもつ。<br/>・例題や前時の内容などを提示し、めあてへつなぐ。</p> <p>2 本時のめあてを知る。</p> <p>めあて</p>  |    | <p>・本時の見通しをもつために、例題提示を工夫したり、前時の振り返りから本時につながるものを選んで提示したりする。</p>  |
| 深める                            | <p>3 「例題」を全員一斉授業形式で取り組む。<br/>・例題を通して、基本的な解き方を学ぶ。</p> <p><b>4 コース選択して「練習問題」に取り組む。</b></p> <p><b>【みんなでみっくんコース】</b><br/>一斉授業隊形で取り組む。<br/>教師や友達と考え、理解して、めあてにせまる。</p> <p>教科書の練習問題<br/>・前面黒板や具体物等を使って考える。<br/>・解き方のポイントを確かめ合う。<br/>・ノートやプリントなどに書いて解く。</p> <p>→解き方が分かった人は<br/>【わくわくわっくんコース】へ<br/>自分で取り組む。<br/>②→③→④→⑤</p> <p>→解き方がまだよく分からない人は<br/>次の問題も一斉授業形式で<br/>考えて解く。</p> | <p><b>【わくわくわっくんコース】</b><br/>自分で考えて取り組む。<br/>①→②→③→④→⑤</p> <p>①教科書の練習問題<br/>→困ったときや自信がないとき「みっくんコース」の板書や話し合いをヒントにする。</p> <p>②学習ドリル<br/>・ミライシード<br/>・eライブラリ</p> <p>③問題作り<br/>・問題を作る。<br/>・作った問題の答えやヒントを作る。<br/>・提出箱へ提出。</p> <p>④友達問題を解き合う<br/>・提出された問題を解く。</p> <p>⑤先の単元問題を解いてみる<br/>・ミライシード</p> | <p>・例題を解くためのポイントに気づくことができるよう、既習事項や具体物、図などを使って考えを導き出す。</p> <p>・「わっくんコース」の児童が困ったときに理解の手助けのために、解き方が分かる板書を作る。</p> <p>・早く正確に解けるように、iPad以外の教具を併用することを確認する。</p> <p>・本時の学びに合った問題を作るように、問題例や問題作りのヒントを提示する。</p> <p>※<b>学びなおしドリル</b>…<br/>関連単元を選んで取り組むことができる。</p> <p>・学びを深めたり、確かなものにしたりするために、児童が作成した問題や教師が用意した問題を提示する。</p> |
| 振り返る                           | <p>5 本時の学習を振り返る。<br/>・適応問題で本時の学びを確認する。<br/>・自己評価する。<br/>・振り返りの視点について、配付されたシートへ入力<br/>・提出箱へ提出。</p>  |  | <p>・本時の学びを自分で確認できるように、適応問題を準備する。</p> <p>・本時の目標に迫ることができるように、具体的な視点を与える。</p>  |

### (3) 様々な場面で I C T 機器を活用し、活用技能の向上を図る

教師の I C T 活用能力を高め、日ごろから教育活動の中で I C T 機器を活用する場面を設けるとともに、系統立てて情報モラル教育を実施する。



#### 定期的な I C T 校内研修会の実施

- iPadの効率的な使い方
- スカイメニューの活用方法
- 情報モラルの情報共有
- デジタル教科書の使い方
- Kahoot! やCanvaなどのコンテンツの紹介
- 校務での効率的な活用方法



#### I C T 活用能力の年間指導計画の随時更新

- 児童の実態に応じて、随時更新  
→活用能力を計画的に向上させる
- 運用ルールを定め、Teamsによる連絡
- キーボードを使用した入力練習の実施  
→学年に応じたタイピング練習  
タイピング検定の実施



#### GIGAワークブックを活用した情報モラル教育

- 年間指導計画に合わせて、定期的に実施
- 持ち帰りの初日や長期休業の前に実施
- 必要に応じて、授業参観でも実施
- 「タブレット運用のきまり」を指導  
→全校でルールを整えることで、継続して実施することができる



#### タブレットを活用した行事や委員会活動

- 児童議会の提案をスカイメニューで作成
- プレゼンテーションや動画を作成し、全校テレビ放送や児童集会で呼びかけ
- 通学班長会で意見をFormsで集約  
→他の班の状況も共有しやすい
- 修学旅行や行事でしおりをデジタル化  
→イラストや写真をカラーにできる  
→印刷と製本、ページの追加の時間が短縮  
→リンクを付けたり資料を配付したりすることで、関連ページの学習がしやすい  
→振り返りやまとめに活用することができる